府立みどり清朋高等学校
校　長　　藤原　隆志

令和５年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

◆生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校
◆４つのチカラを引き出し、伸ばす学校
«育む四つ葉のクローバー（４つのチカラ）»
（１）【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
（２）【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
（３）【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
（４）【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

２　中期的目標

1　確かな学力の育成

（１）【授業力向上】 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
ア　授業力向上に係る取組みを教務企画部に位置づける。教科間で協働し、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善を進める。
※「授業アンケート」全評価軸平均 3.40 をめざす　（R2:3.28、R3:3.33、R4:3.30）
イ　「主体的・対話的で深い学び」の授業、「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定による ICT 機器等を有効活用した授業をより一層展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」満足度　R7:85%（R2:77.0、R3:80.6、R4:75.9）
※学校教育自己診断（生徒）「ICT 機器が授業等で活用されている」満足度　90%以上を維持（R2:87.8、R3:91.0、R4:85.8）
（２）【進路実現の支援】 教育産業を活用した基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
ア　学力向上支援委員会が主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「家庭での学習時間を確保している」肯定率　R7:55%　（R2:51.8、R3:49.0、R4:43.6）
イ　早朝及び放課後や長期休業中の補習・講習の充実に取り組み、校内で自習できるスペースの整備・拡充を進める。
※学校教育自己診断（生徒）「補習・講習を十分行っている」肯定率　R7:85%（R2:76.3、R3:78.6、R4:81.6）
ウ　進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、希望の進路実現を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「進路指導満足度」R7:90%（R2:84.2、R3:86.0、R4:88.3）
（３）【専門コース制の充実】 ２つのコース（文系・理系）及び２つの専門コース（人文探究・こども保育）における３年間を通した学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「コースや授業は自分の将来に役に立つ」満足度　R7:85%（R2:77.1、R3:78.9、R4:81.2）
※生徒の難関私立大学（関西８私大）及び国公立大学の現役のべ合格者数 50 人以上とする。（R2:85、R3:45、R4: 80）
※生徒の難関私立大学（関西 12 私大等）及び国公立大学の現役のべ合格者数 170 人以上とする。（R2:224、R3:155、R4:208）
※令和５年度入学生の専門コース選択者について、こども保育専門コース 20 名、人文探究専門コース 40 名をめやすとし、生徒のニーズに応じた進路指導を充実させる。

2　コミュニケーション力の育成

（１）【生徒指導の充実】 基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
ア　挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS 使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。
※学校教育自己診断（生徒）「基本的習慣の確立に力を入れている」 肯定率 80%以上を維持（R2:75.4、R3:76.1、R4:77.2）
※年間遅刻者数、1,000 以下を維持（R2:1,031、R3:802、R4:734）
（２）【ともに高めあう集団育成】 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
ア　部活動や各種行事を通じて周囲との協調性を養い、課題に向かって仲間とともに越える力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「学校行事満足度」 80%以上を維持（R2:73.9、R3:67.7、R4:78.5）
（３）【人権尊重の教育の充実】 一人ひとりを大切にし、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
ア　心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
※学校教育自己診断（生徒）「学校の人権意識育成姿勢」肯定率　90%以上を維持（R2:85.6、R3:85.6、R4:89.1）

3　課題解決力の育成

（１）【主体的・対話的で深い学びの実践】 授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
ア　「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、３か年の実施計画を作成する。
イ　グローバルな視点を養い、SDGs の達成のために「いつ・どこで・だれと・何を・どのように」行動すればよいか考え、自ら主張できる力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめて発表する」肯定率　65%以上を維持（R2:54.4、R3:53.0、R4:57.2）
（２）【部活動の充実】 部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「部活動に積極的に取組む」肯定率　60%以上を維持（R2:61.4、R3:59.7、R4:57.9）

4　地域貢献力の育成

（１）教科・学年・分掌・部活動との協働による地域交流や社会資源を活用した教育活動を拡充する。
ア　こども保育専門コース生徒によるこども園等への出前授業や交流。
イ　人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
※生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
（２）学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進、主体的に清掃する意識と行動力を養う。
※学校教育自己診断（生徒）「命を大切にする心を学ぶ」肯定率　90%以上を維持（R2:85.4、R3:85.2、R4:91.1）
※学校教育自己診断（生徒）「清掃が行き届いている」肯定率　R7:80%（R2:68.2、R3:71.2、R4:78.3）
（３）開かれた学校づくりの推進
ア　学校運営への一層の協力・理解を求めるため、保護者に対する情報提供をきめ細かく行う。
※学校教育自己診断（保護者）「教育情報の提供」満足度　R7:78%（R2:76.8、R3:74.6、R4:71.1）
※学校教育自己診断（保護者）「本校 HP をよく見る」肯定率　R7:55%（R2:56.4、R3:40.1、R4:40.0）
イ　地域に信頼され、地域の誇りになる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
ウ　中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

5　学校経営・運営体制の強化

（１）普通科専門コース設置校としての学校経営を推進し、教育活動の実施・改善に向け、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化する。
ア　運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
イ　教員間の OJT を機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
ウ　「働き方改革」の推進のため、１階大職員室の機能を生かし、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
（２）「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定により、１人１台端末の利活用促進に向け、校内体制を整備し推進する。
（３）教職員対象の本格的な実働防災訓練の実施について研究し、地域と協働する等、防災意識と実践力の向上を図る。
（４）支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
ア　SC 及び SSW を配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
※学校教育自己診断（保護者）「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」肯定率　R7:80%（R2:73.4、R3:78.6、R4:68.4）
イ　個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行し、すべての生徒が安心安全に学ぶ環境づくりを進める。

府立みどり清朋高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和５年　月実施分］	

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R４年度値］＊%は肯定率	自己評価
1 確かな学力の育成	(１)授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ ICT 機器を活用した授業づくり (２)進路実現の支援 ア 学習習慣の確立に取り組む イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践 (３)専門コース制の充実	(１)ア・研究授業、相互授業見学等の組織的な実践 ・「観点別評価」の実践及び検証、次年度案作成 ・実習・体験学習の推進（校外も含む） ・新学習指導要領に則ったカリキュラムの策定 ・令和７年度入試を見据えた授業内容等の検討 イ・「考える授業」、発表の機会を増やす授業展開の実践 ・１人１台端末及びICTを活用した授業展開の開発・実践（「リーディング GIGA ハイスクール」研究活動） (２)ア・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 ・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 イ・教科を主体とする校内講習体制の確立 ・早朝や放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・令和７年度「共通テスト」の動向の把握と共有化 ・担任の進路指導力向上に資する情報交換会等の実施 ・生徒、保護者への適時な進路情報の提供と周知徹底、 ・大学見学会、外部説明会への参加、卒業生による講話同友会講演会等を活用した進路意識の向上 ・各種検定試験への挑戦、資格取得による意欲向上 (３)・令和５年度入試結果を踏まえた分析結果の共有 ・分析結果を生かした専門コース、一般文系・理系生徒への学習計画の構築及び実践 ・こども保育専門コースにおける教科間連携の充実、地域のこども園等との交流の拡充、さらなる充実	(１)ア・生徒「入学満足度」85%［82.8%］ ・授業アンケート全評価平均 3.30 以上［3.30］ ・生徒「授業はわかりやすい」80%以上［75.9%］ 令和７年度「共通テスト」への対応に向けた研究 ・教職員「授業方法等の検討機会」50%以上［47.8%］ イ・生徒「ICT 機器の活用」85%以上［85.8%］ ・教職員「ICT 機器活用」90%以上［89.1%］ ・授業アンケート「５教材活用」平均 3.45［3.38］ ・校内外向け研究授業、研究協議を実施（12 月までに） (２)ア・生徒「家庭学習時間の確保」50%以上［43.6%］ 新たな学習支援教材の成果検証と改善 イ・生徒「補習講習は十分行っている」80%以上［81.6%］ ウ・教職員「組織間の連携」45%以上[45.7%] ・生徒「進路指導満足度」85%以上[88.3%] 保護者向け説明会、座談会等の充実 ・保護者「進路情報提供満足度」78%[75.6%] ・各種検定試験受験者数、合格者数、有資格者数の状況 (３) 生徒の希望に応じた進路指導を丁寧に行う。 ・関西８私大・国公立大の現役のべ合格者数 40 人以上［81］ ・関西 12 私大等・国公立大の現役のべ合格者数 150 人以上［209］ ・園児と交流する授業を推進する。	
2 コミュニケーション力の育成	(１)生徒指導の充実 (２)ともに高め合う集団育成 (３)人権尊重の教育の充実	(１)・全教職員による生徒指導課題の共有、共通理解 ・生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底 (２) ・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 ・生徒会活動、行事における生徒の主体的な活動の充実 ・学校行事実現・充実のための感染症対策と計画の策定 (３)・一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくり、学級経営の実践 ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」の実践による体系化、道徳教育の推進	(１)・生徒「基本的習慣の確立」75%以上［77.2%］ ・遅刻者数 1,000 以下を維持［734］ (２)・生徒「まとめて発表」55%以上［57.2%］ ・生徒「クラス活動が活発」75%以上［81.6%］ ・生徒会を中心とする新たな活動の実現（2 件以上） (３)・生徒「クラスやクラブは一人ひとりが尊重」85%以上［86.4%］ ・生徒「人権教育の充実」85%以上[89.1%] 関係委員会の連携による系統的プログラム作り	
3 課題解決力の育成	(１)主体的・対話的で深い学びの実践 (２)部活動の充実	(１)自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・SDGs に関する探究活動の企画・実践 ・読書活動、図書館を活用した教育の推進 (２)「部活動改革」によるペア校との連携 ・クラブ間交流の企画運営、外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・中学校との部活動交流のさらなる充実 ・ホームページによる活動報告等の随時発信	(１)・生徒「まとめて発表」55%以上［57.2%］ 各教科の授業や「総合的な探究の時間」で SDGs に関する研究発表を計画的に実施する。 第２LAN 教室の有効活用 ・ビブリオバトル等、読書活動・発表活動の充実を図る。 (２)・部活動加入率 58%以上［58.9%］ ・外部指導者を拡充し活動の充実を図る。 ・ホームページへの更新、アクセス数を維持	
4 地域貢献力の育成	(１)地域と連携した教育活動の展開 (２)防災意識の啓発 (３)開かれた学校づくりの推進 ア　タイムリーな保護者への情報提供 イ　中学校等への広報活動	(１)・地域の学校や福祉施設などとの連携と広報の充実 ・小・中学校への出前授業、こども園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・部活動での小・中学生との交流 ・学校周辺の美化活動の推進 (２)実働防災訓練の経験を生かした防災避難訓練の企画・実践。防災教育の取組みの実践 (３)ア・ホームページの活用による教育情報の提供 ・保護者対象の授業見学会や講演会の充実 ・学校行事における PTA との一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（年３回以上） ・地域に根ざした中高連携の内容充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開	(１) 地域との交流活動、貢献活動の奨励と成果発信 ・生徒「地域の人々などと交流」肯定率 40%以上［37.4%］ ・生徒「学校の美化」80%以上[78.3%] (２) 実働防災訓練の再検討 ・感染症対策を講じた防災避難訓練の実施 ・生徒「命を大切にする心」90%以上維持[91.1%] (３)ア・保護者「教育情報の提供」76%[71.1%] ・本校 HP の充実と運営、アクセス数を維持 イ・生徒の司会進行による学校説明会 （年２回以上） ・部活動での中学生交流会の実施（５部以上） ・出張模擬授業、体験授業（招待）を年間計３回実施	
5 学校運営体制の強化	(１)持続可能な学校組織運営の確立 (２)新しい学校づくりを進める運営体制の強化	(１)・スクールミッション及びスクールポリシーの策定に向けた教育活動の再評価 ・全教職員が教育目標達成に向けて、協力し支え合い実践する組織づくり ・経験年数の少ない教員への OJT、ミドルリーダーの育成 ・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成 ・校務多重化の解消と「働き方改革」の推進、時間外超過勤務の削減 ・SSW 配置を継続し、教育相談支援体制を充実する。 (２)・１人１台端末の活用に向けた校内体制整備 ・ICT を活用した授業実践に向けた教員研修の実施、好事例の共有	(１) 将来構想委員会を中心に、本校のミッションを踏まえ３つのポリシーを計画的に策定・公表する。 ・生徒「先生は互いに協力して指導」70%以上［79.2%］ ・教職員「組織間の連携」45%以上[45.7%] ・教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比２時間減、４～２月[27.5 時間] ・SC、SSW、相談室、保健室、委員会間の連携充実 ・教職員「教育相談体制の整備」65%以上［60.9%］ (２)・校内体制の整備を行う 職員会議の「ペーパーレス化」の成果検証と改善 学校教育自己診断項目の再検討	